

目次2へ 問題へ

1. (1) (ア)  $6 - 9 \div (-3) = 6 - \frac{9}{-3} = 6 - (-3) = 6 + 3 = 9$  答 9  
 (イ)  $3(2x + y) - 2(x + 4y) = 6x + 3y - 2x - 8y = 4x - 5y$  答  $4x - 5y$   
 (ウ)  $\sqrt{3} \times \sqrt{15} - \frac{10}{\sqrt{5}} = \sqrt{45} - \frac{10\sqrt{5}}{5} = \sqrt{3^2 \times 5} - 2\sqrt{5} = 3\sqrt{5} - 2\sqrt{5} = \sqrt{5}$   
答  $\sqrt{5}$

(2)  $(x - 3)^2 + 6(x - 3) - 7 = (X - 1)(X + 7)$   
 $X = x - 3$  とおく  $= (x - 3 - 1)(x - 3 + 7)$   
 $X^2 + 6X - 7 = (x - 4)(x + 4)$  答  $(x - 4)(x + 4)$

(3)  $(x + 2)(x - 1) = -4x - 1$  解の公式を使って  
 $x^2 + x - 2 + 4x + 1 = 0$   $x = \frac{-5 \pm \sqrt{(-5)^2 - 4 \times 1 \times (-1)}}{2 \times 1} = \frac{-5 \pm (\sqrt{25 + 4})}{2}$   
 $x^2 + 5x - 1 = 0$   $= \frac{-5 \pm \sqrt{29}}{2}$  答  $x = \frac{-5 \pm \sqrt{29}}{2}$

- (4) 

Ⓐ	イ	□	ハ	ニ	ホ	Ⓑ
---	---	---	---	---	---	---

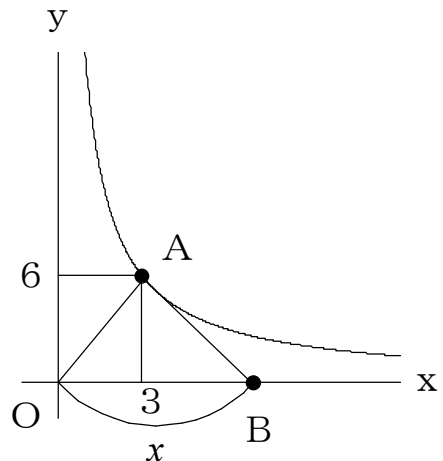
2つのコマA, Bが同じます  
 イの位置にくるのは、さいころの目が (1, 5) のとき  
 ロの位置にくるのは、さいころの目が (2, 4) のとき  
 ハの位置にくるのは、さいころの目が (3, 3) のとき  
 ニの位置にくるのは、さいころの目が (4, 2) のとき  
 ホの位置にくるのは、さいころの目が (5, 1) のとき

同じますにくるのは以上の5とおり

さいころの目のでかたは36とおり

求める確率は  $\frac{5}{36}$  答  $\frac{5}{36}$

- (5) 点Aのy座標は  $\frac{18}{3} = 6$   
 $OB = x$  とすると  $\triangle OAB$  の面積は  
 $\frac{1}{2} \times x \times 6 = 3x = 24$   $x = 8$   
答 点Bの座標 (8, 0)



- (6)  $\triangle EBC$ は二等辺三角形だから  
 $\angle EBC = \angle ECB = a$  とおく

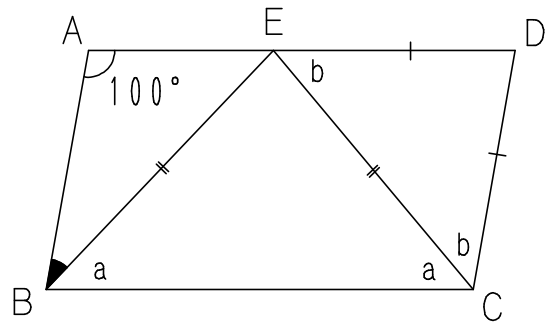
$\triangle DEC$ は二等辺三角形だから  
 $\angle DEC = \angle DCE = b$  とおく

右図から  $a + b = 100$

$$a = b \quad (\text{錯角})$$

よって、 $a = b = 50$

$$\angle ABE = \angle ABC - a = 80 - 50 = 30^\circ \quad \text{答 } 30^\circ$$



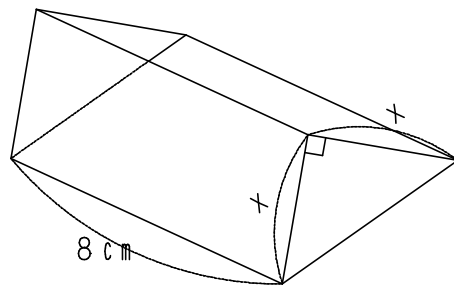
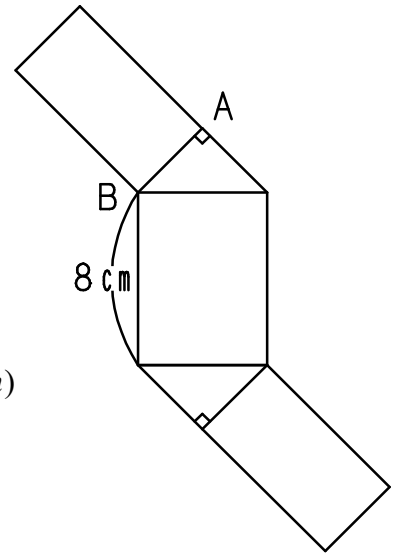
- (7) 答 立体の名称：三角柱

辺ABの長さを $x$ とすると、三角柱の体積は

$$\frac{1}{2}x^2 \times 8 = 4x^2 \quad \text{これが72に等しいから}$$

$$4x^2 = 72 \quad x^2 = 18 \quad x = \sqrt{18} = 3\sqrt{2}$$

答  $3\sqrt{2}$  (cm)



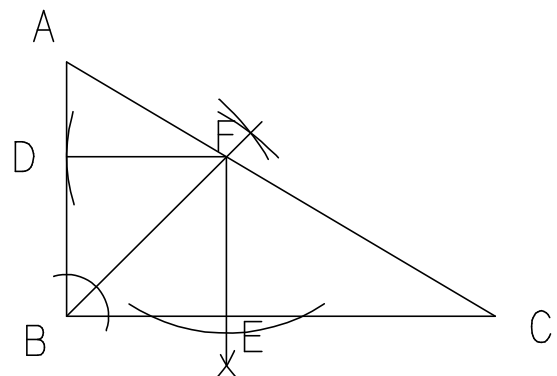
- (8)  $\angle B = 90^\circ$  の二等分線を引き  
 $AC$ との交点を $F$ とする。

点 $F$ から辺 $BC$ に垂線を引き  
 $BC$ との交点を $E$ とする。

点 $F$ を中心にして半径 $FE$ の  
 円弧を描き $AB$ との交点を $D$   
 とする。

点 $F$ と $E$ 、 $F$ と $D$ を結ぶ。

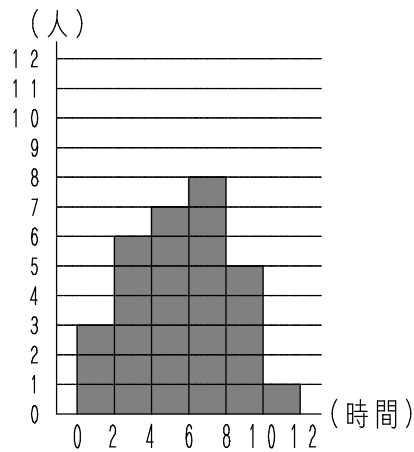
四角形 $DBEF$ は求める正方形である。



2.

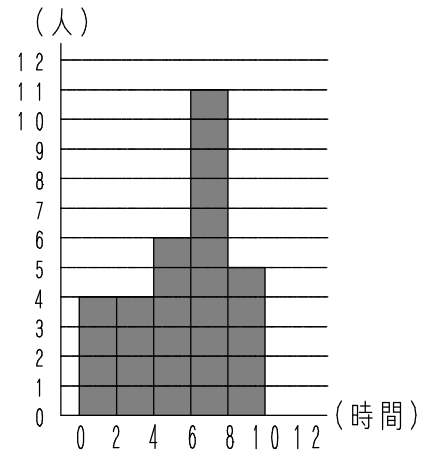
[ 図 I ]

1組の読書時間 (30人)



[ 図 II ]

2組の読書時間 (30人)



(1)

答 6人以上8人未満

(2)

	平均値 (時間)	中央値 (時間)	最頻値 (時間)
1組	ア	5	7
2組	5.6	イ	7

① 1組、2組ともデータの数は30 (30人分)

ア 
$$\frac{1 \times 3 + 3 \times 6 + 5 \times 7 + 7 \times 8 + 9 \times 5 + 11 \times 1}{30} = 5.6 \quad \text{答 } 56$$

イ 30人のデータの中央値は15人目と16人目の平均値であるから  

$$\frac{7+7}{2} = 7 \quad \text{答 } 7$$

② 1組と2組ともに平均値5.6時間と再頻値7は変わらないが、中央値は1組は5時間、2組は7時間で2組の方が大きい値だから。

3. (1) 定価 $x$ 円の20%引き  $x(1 - 0.2) = 0.8x$       答  $0.8x$

(2) ボールバッグ 1 個とサッカーボール 1 個の値段の合計は6000円だから  
 $x + y = 6000$

ボールバッグ 1 個とサッカーボール 6 個を

間違えずに買った場合の価格は  $0.8x + 6y$

間違えて買った場合の価格は  $x + 6y(1 - 0.2)$

間違えて計算した合計金額は、実際に支払う合計金額より 2720円不足していたから

$$x + 6y(1 - 0.2) = 0.8x + 6y - 2720$$

以上から      答  $\begin{cases} x + y = 6000 \\ x + 6y(1 - 0.2) = 0.8x + 6y - 2720 \end{cases}$

(3)  $\begin{cases} x + y = 8000 \text{-----} \textcircled{1} \\ x + 6y(1 - 0.2) = 0.8x + 6y - 2720 \text{---} \textcircled{2} \end{cases}$

②より  $x + 4.8y = 0.8x + 6y - 2720$

$$0.2x - 1.2y = -2720$$

$$2x - 12y = -27200$$

$$x - 6y = -13600 \text{-----} \textcircled{3}$$

①-③  $7y = 19600$        $y = 2800$

$$x = 6000 - y = 6000 - 2800 = 3200$$

答  $\begin{cases} \text{ボールバッグ} & 3200(\text{円}) \\ \text{サッカーボール} & 2800(\text{円}) \end{cases}$

4. (1) 【図 I】より 答 10時20分 [ 図 I ]

(2) 2点 (60, 1300), (80, 2100) を通る直線を

$y = ax + b$  とおくと

$$60a + b = 1300 \quad \text{----①}$$

$$80a + b = 2100 \quad \text{----②}$$

②-① より

$$20a = 800 \quad a = 40$$

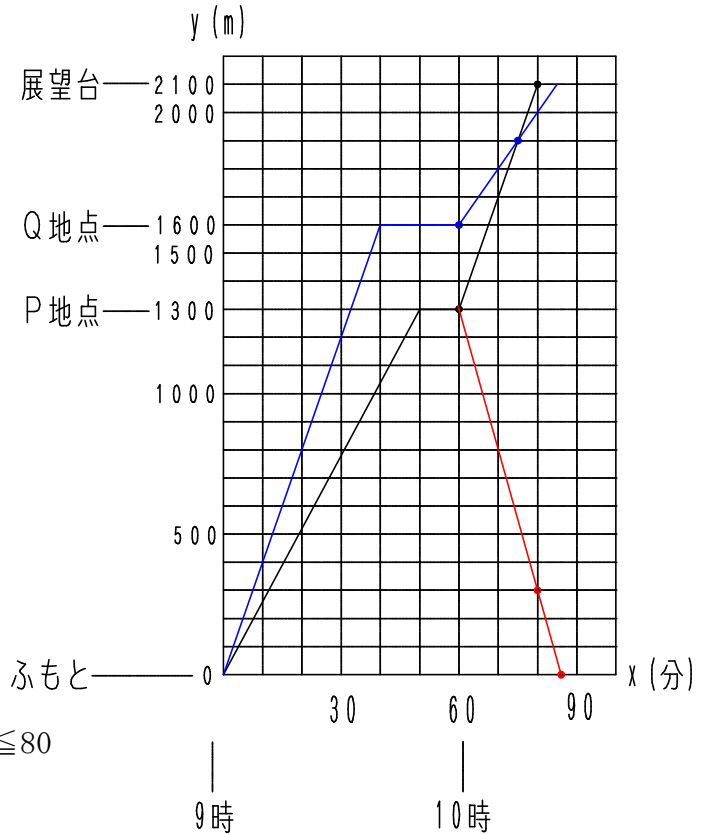
これを①に代入して

$$b = 1300 - 60 \times 40 = -1100$$

以上から求める式は

$$y = 40x - 1100$$

答  $y = 40x - 1100 \quad 60 \leq x \leq 80$



(3) (ア) 答 [図 I]の青色の線

(イ) BさんがQ地点を出発してから展望台に到着するまでの直線の式は傾き20 (分速20m) で点(60, 1600)を通るから、

$$y = 20x + b$$

$$20 \times 60 + b = 1600 \quad b = 400$$

よって、 $y = 20x + 400$

この式と(2)で求めた式を連立方程式で解く。

$$40x - 1100 = 20x + 400$$

$$20x = 1500$$

$x = 75$  -----10時15分 答 10時 15分

(ウ) Cさんのグループの式を求める。この式は2点(60, 1300), (80, 300)を通るから、求める式を $y = ax + b$ とすると、

$$\begin{cases} 60a + b = 1300 \\ 80a + b = 300 \end{cases}$$

$$-50x + 4300 = 0$$

$$x = 86$$

これを解いて、 $a = -50, b = 4300$

よって、求める式は  $y = -50x + 4300$

よって 10時 26分

この式で $y=0$ のときの $x$ の値が求める解である。

答 10時 26分

5. (1)  $\triangle AQB \equiv \triangle APC$ で、

$\triangle ABC$ ,  $\triangle AQP$  は正三角形だから

$AB = AC$  -----①

$AQ = AP$  -----②

$\angle PAQ = \angle CAB = 60^\circ$  ----③

$\angle BAQ = \angle PAQ - \angle PAB$  ----④

$\angle CAP = \angle CAB - \angle PAB$  ----⑤

③④⑤から

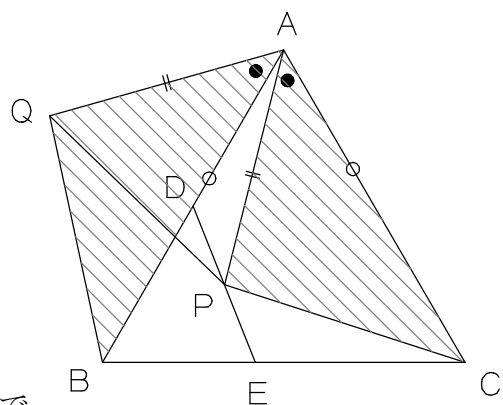
$\angle BAQ = \angle CAP$  -----⑥

①②⑥から

2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、

$\triangle AQB \equiv \triangle APC$

[ 図 I ]



(2) ① 直線QBと直線ACの位置関係

答 QB // BC

[理由]

(1) から  $\angle \text{ア} = \angle PCA$  ( $\angle ECA$ )

また、正三角形ABCより

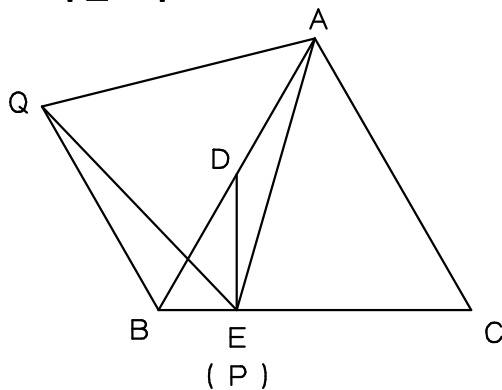
$\angle \text{イ} = \angle PCA$  ( $\angle ECA$ ) =  $60^\circ$

よって  $\angle \text{ア} = \angle \text{イ}$  となり、

$\text{ウ}$  が等しいから

ア QBA    イ CAB    ウ 錯角

[ 図 II ]



② ①より  $\triangle AQB \equiv \triangle APC$ だから

$QB = EC = 3$

$BE = 4 - 3 = 1$

AD = DBだから

$\triangle ADE$ の面積を1とすると

$\triangle DBE$ の面積も1

$\triangle ABE$ の面積は  $1 + 1 = 2$

$\triangle AEC$ の面積は  $\triangle ABE$ の面積の3倍になるから6

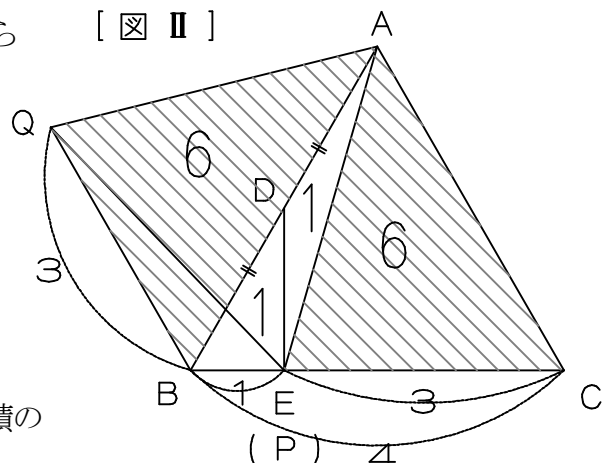
$\triangle AQB \equiv \triangle AEC$ だから、 $\triangle AQB$ の面積も6

よって、四角形AQBCの面積は  $1 + 1 + 6 + 6 = 14$

よって、 $\triangle ADE : \text{四角形AQBC} = 1 : 14$

答  $\frac{1}{14}$ 倍

[ 図 II ]



以上